

令和3年度認定 (No.93)

# 農業名人

パセリ栽培名人 いけだ 池田 まさゆき 政幸

昭和44年生まれ 南箕輪村在住

～土にこだわって、一生続けていきたい～



平成15年33歳のときに、自分の好きなことをやっていきたいという思いから、勤めていた会社を辞めて就農した。JA 担当者に相談する中、「人と違うものを作りたい」という思いから、当時は上伊那での生産者が少なく、南箕輪村ではまだ生産者がいなかった「パセリ」に面白さと魅力を感じ、挑戦することに決めた。

当時は、パセリ農家が周りにいなかったため、栽培については独自に情報を集め試行錯誤を繰り返した。アブラムシやうどんこ病などで失敗することもあったが、常に研究熱心に栽培に取り組み、独自の栽培方法を確立させていった。

パセリは一年一作で、毎年播種から2万8千本の苗を育て、現在はハウス20アール、路地20アールに作付けをしている。いくつかの品種を試した結果、ここ10年は、緑が濃くて葉っぱの巻きが強い長野県原産の洗馬系（せばけい）のパセリを栽培、5月から10月までの収穫期には年間で約10トンのパセリを主に関西方面に出荷している。



年間を通して一番大切なのは11月から12月にかけての土作りだと言い、特にこだわりを見せている。化学肥料を極力避けて、酵母、麴、米ぬかなどを土壌に混ぜ込み、水をたっぷり与えて土壌還元消毒を行うなど、この土作りの良し悪しがパセリの出来具合に影響するため、培ってきた経験や技術に基づいて丁寧に取り組んでいる。

パセリ一筋で17年目に突入し、パセリの生産では第一線で活躍している今もなお常に研究熱心で意欲的な姿勢は変わらず、「毎年毎年良くなるように、特に土にこだわって、自分の目が届く範囲で一生続けていきたい」と、今後ますますの農業振興と活躍が期待される。